

機械摘みにも適する良質・多収てん茶用新品種候補

「53-38」

[要約]

手摘みだけでなく機械摘みにも適する良質・多収てん茶用新品種「53-38」を育成した。「さみどり」に比べ樹勢がやや強く株張りに優れる。製茶品質は「さみどり」、「あさひ」と同様に良質で、特にてん茶として良好な覆い香味が付きやすい特性を有する。

[キーワード] チャ、機械摘み、良質、多収、てん茶、覆い香味、「53-38」

[担当] 京都府立茶業研究所・栽培課

[連絡先] 電話 0774-22-5577、メール ngc-chaken@pref.kyoto.lg.jp

[区分] 近畿中国四国農業・茶業

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

京都府のてん茶生産は自然仕立てによる手摘みが主流であるが、最近では加工用抹茶などのてん茶用途の拡大から機械摘みのてん茶生産が急増している。しかし、機械摘みてん茶の産地では「やぶきた」が主体であり、てん茶用品種と比較すると品質面で劣ることや京都府で奨励しているてん茶用品種「あさひ」、「さみどり」が手摘み用の品種であることなどから、機械摘みにも適した良質・多収のてん茶用品種の育成が望まれている。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

「53-38」は、1975年に採種した「さみどり」の自然交雑種子から選抜した系統である。1979年から系統比較試験、1993年からは現地適応性試験を実施し、栽培形質・品質特性ともに優れているため、2004年に種苗登録申請を行うこととした系統である(写真1)。

2. 特性の概要

- (1) 萌芽期は「さみどり」に比べ3～4日遅く、「やぶきた」に比べ1～2日遅い中生種である(表1、表2)。
- (2) 挿し木発根性及び初期生育は「さみどり」より優れ樹勢もやや強い(表1)。
- (3) 樹姿は直立型だが「さみどり」に比べ株張りが良く、仕立てが極めて容易であることから機械摘みてん茶の栽培にも適している(表1、2)。
- (4) 成葉及び新葉は楕円形で「さみどり」よりやや大きく葉厚がやや薄い(表1、表2)。
- (5) 収量構成は「さみどり」に比べ新芽数がやや少なく百芽重が重い芽重型である(表2)。
- (6) 生葉収量は「さみどり」と同等で優れ、製茶品質も「さみどり」、「あさひ」とほぼ同等で

優れる。特に外観では染まりが良く、内質も被覆条件(本ず、黒色化学繊維資材)にかかわらずてん茶として良好な覆い香味が付きやすい特性を有している(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「やぶきた」と同様に炭疽病に弱いため、本病の発生しやすい地域では適切な防除が必要である。
2. 栽培適地は京都府内全域のてん茶生産地である。

[具体的データ]

表1 系統比較試験における一般栽培特性(茶業研究所:自然仕立て)

品種・系統	早晚性 ¹⁾		挿し木発根性 ²⁾			初期生育・樹姿 ³⁾				成葉形質			耐病性	
	萌芽期 (月・日)	摘採期 (月・日)	新梢長 (cm)	生育の 良否	均整度	樹高 (cm)	株張り (cm)	株張り 指数	樹勢 ⁴⁾	形	大きさ	厚さ	炭疽病	輪斑病
53-38	4.6	5.20	20	4	4	62	42	0.69	3.4	楕円	やや大	やや薄	弱	中
やぶきた	4.5	5.18	-	-	-	65	49	0.76	3.7	長楕円	大	中	弱	弱
さみどり	4.2	5.23	15	3	5	64	38	0.60	3.0	長楕円	中	中	中	やや弱

1)萌芽期は1989年～1996年までの8年間の平均萌芽日、摘採期は1994年～1997年までの4年間の平均摘採日。

2)挿し木発根性は挿し木当年(1978年)の調査。

生育の良否及び均整度は、1:不良 2:やや不良 3:中 4:やや良 5:良として区分した。

3)初期生育・樹姿は定植2年目(1980年)秋季における調査。

4)樹勢は1989年～1996年までの8年間の生育の良否(1:不良 2:やや不良 3:中 4:やや良 5:良)の平均値。

表2 現地適応性試験における栽培特性及び摘芽・新葉形質(綴喜郡宇治田原町A:弧状仕立て)

品種・系統	栽培特性 ¹⁾				摘芽形質 ²⁾				新葉形質 ³⁾			
	萌芽期 (月・日)	摘採期 (月・日)	樹高 (cm)	株張り (cm)	新芽数 (本/m ²)	新芽長 (cm)	新葉数 (枚)	百芽重 (g)	形	大きさ	厚さ	色
53-38	4.7	4.16	81	127	813	9.0	3.8	107	楕円	やや大	やや薄	緑
さみどり	4.4	4.16	77	120	839	8.1	3.9	94	やや楕円	中	中	淡緑
あさひ	-	-	-	-	-	-	-	-	楕円	やや大	やや薄	緑

1)2)1998年～2002年(定植4～8年目)の間の4年間の平均値。

3)「あさひ」の新葉形質との比較は、綴喜郡宇治田原町B(自然仕立て・黒色化学繊維被覆・手摘み)において行った。

表3 系統比較試験及び現地適応性試験における一番茶収量及び製茶品質

試験地 (仕立て・被覆・摘採方法)	品種・系統	生葉収量 ¹⁾ (kg/10a)	官能審査評点(てん茶) ²⁾						備考 ³⁾
			外観	香氣	水色	滋味	から色	合計	
茶業研究所 (自然仕立て 本ず被覆 手摘み)	53-38	698	18.0	17.7	19.0	18.0	18.8	91.5	
	やぶきた	750	16.5	16.0	15.3	16.2	17.0	81.0	
	さみどり	708	18.2	18.3	17.8	18.3	19.5	92.1	
綴喜郡宇治田原町A (弧状仕立て 黒色化学繊維被覆 はさみ摘み)	53-38	454	19.6	19.4	19.6	19.3	18.6	96.5	
	さみどり	421	19.3	19.6	19.5	19.5	20.0	97.9	
綴喜郡宇治田原町B (自然仕立て 黒色化学繊維被覆 手摘み)	53-38	460	19.8	19.6	19.3	19.4	19.5	97.6	汚えあり
	あさひ	384	19.0	19.3	19.1	19.4	18.8	95.6	

1)2)茶業研究所は成圃化後の1994年～2002年の間の5年間(製茶品質は3年間)、宇治田原町Aは1998年～2002年(定植4～8年目)の間の4年間、宇治田原町Bは1998年～2001年(定植4～7年目)の4年間の平均値。

2)官能審査は各項目ごとに最良のものを20点満点とする相対評価とした。

3)備考欄は各品種・系統に特徴的に出現した審査摘要。

[その他]

研究課題名 : 新品種育成に関する試験 系統比較第7群
予算区分 : 府単
研究期間 : 2002年度(1975年～2002年)
研究担当者 : 荻 安彦、神田真帆、大串卓史、上辻久利
発表論文等 : 種苗法による品種登録予定



写真1 一番茶新芽生育期の「53-38」